

【編集後記】

私事だが公認心理師の受験資格取得のために現任者講習を受講した。4日間30時間のロングラン。2018年度に始まった、学部と大学院で既定のカリキュラムを修了または学部卒後2年間の実務経験によって受験資格が得られる制度による試験が正式に始まるまでの移行の措置に基づいている。講習では各日で異なるメンバーでグループワークを行った。私が接した参加者11名のうち心理卒は3名であり、それぞれのバックグラウンドは多様であった。公認心理師は学部で心理学を修得することが必須であるにもかかわらずである。走り始めたばかりの資格制度であり、移行措置の間だけに生じる問題とは言え、質的な保証がなされるのか懸念が残る。尤も臨床心理士制度は学部での心理学の学びを必要としておらず同様の問題を抱えたままであることを考えると、公認心理師では一時的な問題とも言えるだろうが。

いずれにしてもそのような質の水準は、育成や運用に関わる組織や人間の活動によって初めて維持される。本学大学院文学研究科心理臨床学専攻は公認心理師と臨床心理士の両方の受験資格に対応しているが、創生期よりその屋台骨を支えてこられた丸山総一郎先生がご定年により今年度をもって親和を去られる。私が着任した2006年当時、心理臨床学専攻担当の教員は研究指導担当でない教員も含めて9名すべてが任期に定めない専任教員だった。末田啓二先生がご退職後の2016年度以来4年間は丸山先生を含めて5名。そして丸山先生の後任として来年度からは初めて任期制の方が着任される。人員が半減となった状況にあっても、それ以前と同様に丸山先生が質の維持に貢献されてきたことは疑いの余地はない。多くの論文、著書・編書を発表される中でこの研究科紀要に寄せられた論文は14本。うち12本は指導された大学院生、修了生を筆頭著者としたものだった。この場をお借りして先生の親和における存在の大きさとご貢献に深く敬意と感謝を表すと共に、ご退職後もますますのご発展をお祈りしたい。

(T.Y.)

表紙のデザインについて

うす緑の落ち着いた色調を背景に紺の帯に白抜きの神戸親和女子大学大学院研究紀要の横文字を配し、多くの研究を表す縦の緑の直線が未来に向けて伸びる構成となっている。このような色調と構図はさわやかさ・聡明さ・厳粛さ、大学院をベースとした発展と意気込みを象徴している。

神戸親和女子大学大学院研究紀要 第16巻

令和2年3月31日発行

編集者 神戸親和女子大学大学院研究紀要編集委員会
発行人 大学院研究科長 三井 知代
住 所 〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1
神戸親和女子大学大学院合同研究室 078-591-1743
印 刷 サ ン キ 印 刷 株 式 会 社 06-6453-6541